



書いてはいけ
ない



karinomaki

贈り物

私は、正しい生き方をしていません。人を傷つけるし、精神病患者です。もしかしたら、良心もないかもしれません。何故なら、大好きな人に逆らっても、やりたいことをやってしまいます。

その人は否定しますが、私は、大好きな人がいて、心がつながっていると思っています。だから、書いてはいけないことを書く気になりました。

「寂しい」という一言です。

それは、私がここに書くことで、時空を抜けてその人に届くでしょう。私からの、涙の贈り物です。

髪どめ

昨日、自分が悪い人間だと思った私は、髪どめを買いました。私が悪い理由は、寂しさのためです。私の大切な人は、私を突き放します。私はそれに復讐をしたい。何故なら、私の病気（精神病）は、寂しさを押し込めて、周りを破壊したくなって発症したからです。

でも、私が買った髪どめは、悪い文章を書くことを止めてくれました。

タイトルに、書いてはいけないとつけたのは、大好きな人を破壊したくなって書き始めたからなのです。

どうして私は悪いのでしょうか。

どうして私は悪いのでしょうか。

私は、果てしない孤独を生きてきたのです。だから、大切な人、わかって下さい。おさえられません。気が狂いそうです。だから、私に髪どめを買わせたのでしょうか？

悪い心は果てしない孤独から来る

どうして人は、悪いのか、それは、孤独だからです。誰と一緒にいても、生ぬるい愛で満足できない人は、最終的に果てしない孤独を知ってしまい、弱い人間は悪に走ります。

だからですね、私がこれを昨日買ったのは。おまじないなのですね。もうこれ以上理不尽に人を傷つけない、破壊しないための。

どうしてかわからないけれど、おまじないの力を信じます。大事な人を傷つけようとして書き始めた文章。その文章を、私を救ってくれて、同時に「強くなれ」と、突き放すあなたの強さが、髪にやどる。

判断力

カントの判断力批判を思い出しました。この髪どめは、判断力なのですね。芸術を理解する力。道徳がわからなくなるほど追い詰められた私の天上に、芸術がきらめきます。そうですね、寂しくない人に、芸術はわからない、空を見て、芸術を見て、本当に感動する人は、寂しさを知っている人です。

心の割れ目に溶け込むのが芸術だから。

この文章で、助けてくれない大事な人を傷つけなくてよかった。書いてはいけないことを止めてくれたのは、美しい芸術作品の、私の髪どめでした。